

最近の日韓経済関係を振り返る（後編）対韓直接投資は半導体、IT分野に集中

別表1：日本企業の対韓直接投資事例（投資元企業が製造業、2019年1月～2023年4月）

発表年月日	企業名	概要
2019年 2月7日	島津製作所	・計測機器の100%出資の販売子会社（ソウル市、資本金84億ウォン）を設立。従来の合併会社経由の販売から転換し、変化する市場に迅速に対応する。2022年度に売上高800億ウォン、営業利益45億ウォンを見込む。
5月8日	大成ラミック	・韓国支店（ソウル市）を新設。韓国市場での販売拡大のため、液体充填機のデモルームを併設した拠点を構築。
5月10日	ニッタ	・工業用ホース、チューブなど生産の合併会社（慶尚北道亀尾市）の株式を合併相手の東陽特殊硝子から取得し、100%子会社にする。意思決定の迅速化などを図る。
10月15日	ダブル・スコープ	・100%子会社のW-SCOPE忠州工場で新規製膜ラインの量産稼働を開始。欧州の電気自動車向け新規案件の生産能力確保が狙い。
10月25日	日華化学	・高付加価値なフッ素化学品などの増産体制構築を目的として約200億ウォンを投じた子会社ニッカKOREAの新工場が完成。生産能力は従来の年産11,000トンから14,000トンに拡大。生産品目は、（1）フッ素系撥水（はっすい）剤、フッ素フリー系撥水剤の原料など、（2）高付加価値フッ素化学品。
12月12日	東ソー・クォーツ	・石英ガラス加工製品の製造・販売を行う現地法人の設立、石英ガラス製品の現地生産の開始を決定。 ・半導体市場の需要拡大で大きな役割を担う韓国で設備投資を実施し、日本・台湾に続く拠点として拡充していく。
2020年 3月16日	日本ドライケミカル	・日本ドライケミカルの調達先・事業パートナーの消防機器メーカーMasteco Industryを子会社化。Masteco Industryとの関係強化を図る狙い。
3月19日	浜松ホトニクス	・韓国の販売代理店の販売・メンテナンス機能を新会社ハママツホトニクス 코리아に移した上、同社の株式55%を取得し、現地法人化。画像計測機器事業の販売体制を強化し、韓国半導体メーカーなどのニーズに応える狙い。
5月18日	太陽ホールディングス	・同社（出資比率70%）と同社韓国子会社（30%）は、半導体パッケージ基板用ドライフィルムソルダーレジストの製造工場設立のため、子会社を設立することを決議。半導体パッケージ基板用ドライフィルムソルダーレジストの最大市場・韓国での量産体制を確立し、顧客サービスの充実を図る。
6月10日	東ソー・シリカ	・南海化学と合併会社を設立し、低燃費タイヤ用シリカの生産拠点を建設。出資比率は東ソー・シリカ67%、南海化学33%。
12月8日	昭和電工マテリアルズ	・京畿道安山市の子会社にCMPスラリー（半導体回路平坦化用研磨材料）工場を新設することを決定。半導体デバイスの技術進歩に伴う高機能化ニーズの高まりと需要増に対応する。
2021年 2月17日	堀場エステック	・主力製品のマスフローコントローラーの生産体制を強化。年内に月産1,000台レベルの生産体制確立を目指す。韓国には、世界的な半導体メーカーの存在に加え、半導体製造装置メーカーも台頭しており、市場規模が拡大している。さらなる事業成長のため、生産体制強化を決定。
3月4日	新明和工業	・ターボプロワの設計・製造・販売の TurboMAX の株式の追加取得を決定、出資比率は5.9%から81.0%に。TurboMAXのコア技術と新明和工業の技術の融合による新たな事業展開や、海外市場での協力拡大を目指すため、子会社化。
4月21日	三井化学	・韓国合併会社・錦湖三井化学のMDI（ジフェニルメタンジイソシアネート）生産設備増強を決定。断熱材向け需要や電気自動車などに使用される高機能MDI需要の拡大に対応する。

別表1：日本企業の対韓直接投資事例（投資元企業が製造業、2019年1月～2023年4月）

4月30日	日産化学	・韓国子会社が工場団地の土地借用で地方自治体と覚書（MOU）を締結。第5世代移動通信ネットワーク（5G）やリモートワーク浸透による電子機器需要増、電気自動車（EV）の普及で増加する半導体需要増に対応すべく、半導体材料工場を現地に新設する予定。
8月24日	住友化学	・愛媛工場と韓国拠点の半導体用高純度ケミカルの生産能力を強化する。このうち、韓国では、2023年下期稼働開始を目標に、子会社の東友ファインケムの益山工場（全羅北道益山市）の高純度アンモニア水の生産能力を約4割増強する。旺盛な半導体需要に対して、安定供給責任を果たす狙い。
8月31日	住友化学	・安定供給確保のために、大阪工場の増設と並行し、子会社の東友ファインケムの益山工場に液浸ArF（フッ化アルゴン）フォトレジストの製造プラントを新設する。2024年度上半期に稼働開始予定。
9月16日	アルバック	・韓国現地法人に設計・制御設計を行う技術開発センターを開設。
9月16日	TBM	・環境対応で市場拡大が見込まれる生分解性LIMEX（複合素材の一種）の製造・販売会社をSKCとの合弁で設立。韓国・世界市場での販売を目指す。
9月24日	ユニデンホールディングス	・レーダー・レーザーディテクター（探知機）などの開発・製造のATTOWAVEの株式80%を取得。優れた製品開発力を有するATTOWAVEの連結子会社化により米国などグローバル市場の変化に迅速に対応する。
10月5日	東レ	・子会社の東レ先端素材がSKケミカルのプリプレグ（炭素繊維シート）事業を約300億ウォンで買収。炭素繊維複合材料事業の拡充を目指す。
10月14日	ダブル・スコープ	・欧州の電気自動車（EV）需要増加に対応すべく、韓国法人に約120億円を投じ、2本の成膜ラインを設置する。さらに、顧客企業の要請により、年内に韓国現地法人が欧州に法人を設立し、2025年までに8本の成膜ラインと16本のコーティングラインの設置を進める。
12月22日	トクヤマ	・SKジオセントリック（旧SK総合化学）と電子工業用高純度イソプロピルアルコール製造・販売の合弁会社（出資比率は50%ずつ）を設立することを決議。半導体製造プロセスで使用される高純度イソプロピルアルコール需要の増加に対応する狙い。
2022年 1月19日	安川電機	・現地法人の韓国安川電機は、ドゥリム安川の株式の追加取得を決定。出資比率は35%から62.75%に上昇。シナジー効果発揮による塗装・シーリングロボットシステム市場での事業確立をさらに進める狙い。
1月21日	旭化成	・100%子会社の東西石油化学でバイオマスプロピレンを用いたアクリロニトリルを生産開始へ。アクリロニトリル製品のサプライチェーン全体で二酸化炭素削減を目指す。
1月26日	TOWA	・ブレードの製造・販売のFine Internationalの株式を取得し、100%子会社化。同社が有する切断技術と当社のシンギュレーション技術を融合させ、新製品の開発、ブレード販売などのトータル・ソリューション・サービス事業の収益拡大を図る。
1月31日	シーシーエス	・京畿道の駐在員事務所を子会社に格上げ。電子部品やディスプレイの製造装置に組み込むLED照明の販売力強化を目指す。
3月22日	日本農業	・農薬製品の販売力強化のためソウル市に現地法人を設立。
4月6日	日機装	・同社の米国子会社が釜山市にLNG（液化天然ガス）船関連製品の製造施設を新設。2022年6月から稼働予定。成長が見込まれるLNG燃料船関連事業の拡大を目指す。
4月21日	NECネットエスアイ	・通信機器メーカーのHFRの株式4.5%を取得。HFRとの連携を強化し、日本市場での当社のローカル5G事業の強化を図る。
4月28日	東海カーボン	・炭素黒鉛製品の製造販売を行う韓国現地法人・東海カーボン・コリアの経営安定化などのため、第2位の株主・KCから株式を追加取得。東海カーボンの出資比率は44.4%から47.4%に上昇。

別表1：日本企業の対韓直接投資事例（投資元企業が製造業、2019年1月～2023年4月）

5月27日	日本マイクロニクス	・半導体需要拡大に対応する生産スペース確保を目的に、約250億ウォンを投じ、京畿道富川市に新工場（半導体計測器具のアドバンスプローブカードを生産）を建設する。
7月22日	ADEKA	・韓国子会社が先端半導体メモリー向け高誘電材料の生産能力を2倍以上に引き上げることを決定。DRAMの微細化進行に対応する。
7月28日	ダブル・スコープ	・韓国子会社が新規事業としてイオン交換膜の製造・販売に取り組むことを決定。忠清北道陰城郡の外国人投資地域に陽陰イオン交換膜生産工場を新設へ。
7月28日	コニカミノルタ	・センシング事業のドイツ子会社を通じ、ディスプレイ検査・3Dセンサー検査を行うキムスオプテックを買収。韓国大手企業との接点を強化し、これら事業の拡大を目指す。
9月6日	昭和電工	・韓国子会社が京畿道安城市の半導体製造用高純度ガス貯蔵施設能力を2倍に拡張する工事を実施。韓国の半導体製造用高純度ガスの旺盛な需要に応える狙い。
10月4日	富士フイルム	・ソウル市に培地販売の現地法人を新設。韓国の培地市場は年率15%前後の成長が続いており、今後も高い成長性が見込まれる。韓国で直販体制を構築し、細胞治療・遺伝子治療用の培地などを提供する。
10月13日	JSR	・電子材料事業の販売代理店で、韓国企業との合併会社のJSRエレクトロニクス・マテリアルズ・コリアを完全子会社化。完全子会社化により、グループ一体運営による顧客満足度の向上とサービス提供の迅速化を図る。
12月13日	富士フイルム	・韓国子会社が京畿道平澤市にイメージセンサー用カラーフィルター材料生産の新工場を建設、2024年春に稼働開始予定。顧客に近い立地を生かして迅速供給を図り、顧客満足度の向上と韓国での需要増に対応する。
2023年 2月6日	東レ	・韓国子会社の東レ尖端素材がPPS（ポリフェニレンサルファイド）樹脂の生産能力を拡張。生産するPPS樹脂は、韓国国内、中国、欧米、ASEANの東レグループのコンパウンド拠点到供給する。
2月17日	ワイエイシイホールディングス	・人工知能（AI）を活用したFPC（フレキシブルプリント回路基板）・半導体関連の検査装置製造のGDテック（京畿道安養市）の全株式を取得。ワイエイシイ・グループの顧客・技術との癒合で新たな製品開発・市場開拓を行う。
2月24日	ADEKA	・情報・電子化学品事業の研究開発（R&D）機能拡充のため、研究開発センターを移転することを決定。先端半導体の技術革新が続く中で、顧客への提案力や市場ニーズへの対応力を強化する。
2月24日	オリンパス	・消化器用メタリックステントメーカーのテウン・メディカルを買収。テウン・メディカルの専門性や技術とのシナジー効果により、消化器科処置具のポートフォリオを強化する狙い。
3月13日	出光興産	・リチウム電池材料、結晶性酸化物半導体、有機EL材料、新規農薬などの高付加価値素材の研究開発加速、マーケティング体制強化を目的に、100%子会社・出光アドバンスマテリアルズコリアを設立。
3月20日	東レ	・韓国子会社の東レ尖端素材が水処理O&M（施設・運営管理）専門企業のハンミ・エンテックを買収。水処理事業強化を図る。
4月27日	ADEKA	・韓国子会社が先端半導体メモリー向け高誘電材料の生産設備増強を決定。投資額は21億円、2023年度中の営業運転開始予定。半導体市場の拡大と、微細化・三次元実装化などの技術革新に対応する。

注：企業名はプレスリリース発表時。

出所：日本企業各社のプレスリリース（一部、在韓日系企業のプレスリリースを含む）に基づき作成